

04

デザインとワークショップを繋ぐ

浜松を拠点にデザイナーとして働きながら、全国でワークショップを企画実施するウエダトモミさんに、両活動についてお聞きしました。



実施したワークショップのチラシデザイン



子どもたちとのシルクスクリーンのワークショップ

広告、書籍など紙媒体のデザイン制作をずっとしてきました。今は独立して7年目、デザイン制作とアートワークショップ企画実施の2軸をメインにしています。シルクスクリーンプリントを一人で細々と制作していた時期があり、その方法が少し変わっていて、子どもでも簡単にできる技法だったのでワークショップとして始めたのが小さなスタートでした。その後、BOB ho-hoを結成し『Printable(可能性のあるプリント)である状態をつくり出す』を根幹として全国各地でワークショップを展開しています。ここ数年、福祉施設や保育園などから継続型のワークショップ依頼が増えています。現場では、場所や人が持っている悩み、思想、哲学に触れることが多いです。組織的な問題から個人的な相談まで、現場にはぎゅっと詰まって溢れていて、ワークショップやデザインでその問いを解決するのは簡単じゃないけど、問い続けることを良しとする空気感は生まれてきています。

ウエダトモミ (グラフィックデザイナー)

本の装丁、編集、イラストレーション、シルクスクリーンプリントでのオリジナル作品制作などグラフィックデザインを中心に活動。BOB.des 代表。またワークショップの企画運営、創作の場作りとして全国各地の福祉施設、保育園、幼稚園、小中学校や地域コミュニティで実施。2015年ワークショップユニット「BOB ho-ho」をホシノマサハル(摺師)と結成。2022年5人のアーティストと「そろそろ art in progress」団体を立ち上げ。



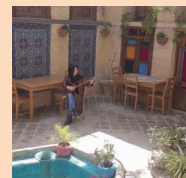
05 音楽のキュレーション 世界を広げる



左: 楽器博物館での担当展覧会「どうする 江戸の音楽」
中: イラン音楽のワークショップ
右: イランの踊りのレクチャー・コンサート

学芸員は博物館や美術館の専門職員で、英語では「キュレーター」といいます。「キュレーション」といえば、もともとと展覧会を企画・制作することを指しますが、「作品を選び取って構成することから「情報を特定の文脈に沿って提示する」といった意味で他の分野でも使われるようになりまし

その中核を成すのが「イランの音楽」に関する実践です。イラン出身の人々が親しんできた音楽を入り口として、それと結びつく詩の文化、また女性の歌唱や踊りをめぐる社会的な制約に目を向ける企画をこれまでに開催しました。意図してきたのは、参加する方々が自身の体験との共通点を見いだすきっかけとなるキーワードを持ち込み、「イラン」に対する捉えかたを変化させていくことです。楽器博物館で働き始めて、楽器が新たに私のキュレーション実践の対象に加わりました。楽器は、音楽を通じてだけでなく素材や形など視覚的な要素とその変遷から、人間の営みについて教えてくれます。そのメッセージから何を選び、どのように提示するのか、念入りに検討しながら展覧会を制作しています。ひとつの音楽・楽器でも多岐にわたるその方法論を引き続き追究していきます。



石井紗和子 (浜松市楽器博物館学芸員)

キュレーター。大学院在学中、レクチャー・コンサート「イランと日本の間で (Vol.1—詩と音楽のある生活、Vol.2—ペルシアの踊りと生活)」を企画開催。これまで担当した展覧会に「発見! 楽器の動物園」「どうする 江戸の音楽」など。ファンリテーターとして携わった浜松市内でのイベントには「詩をうたう ~イラン音楽のワークショップ~ 鴨江音楽室」(浜松市鴨江アートセンター主催)、「生活文化から考える多文化共生 #3 暮らしの中の音楽」(浜松市国際課主催) などがある。

06

館長からのメッセージ

エンジニアリングするアートセンター

鴨江アートセンターは「創造都市・浜松のアート拠点」として2013年に開設され、「アートのある市民の居場所」を目指しています。浜松市は音楽分野の創造都市としてユネスコ創造都市ネットワークに加盟していますが、多くの世界的企業が生まれた産業都市の顔の方が有名かもしれません。芸術と経済は創造都市推進の両輪ですが、そんな浜松らしい場所「エンジニアリングするアートセンター」を、テクノロジーとアートが出会う新しい表現テーマとして考えてみました。

創造都市は多彩な創造的人材が集まり、クリエイティブ経済が盛んになることで活力が生まれますが、経済を活性化させるクリエイティビティとは何かについては様々な意見があります。最近よく取り上げられるテーマにデザイン思考やアート思考があり、デザイン思考は顧客視線で、アート思考は開発者(エンジニア)視線という違いがありますが、デザイン思考は顧客利便性を解決するもの、一方のアート思考はアーティストのように0から1を生む、誰も考え付かない新しいものを創造することとも言えます。直線的思考にならない「space」(またはmargin、余白)の存在が大切で、それがアートセンターの使命だと考えます。

「すべての人は芸術家である」はヨーゼフ・ボイスの有名な言葉ですが、岡本太郎も『今日の芸術』(光文社、1954年)で同じことを書いています。この本は70年前に出版されましたが、「今日の芸術は、うまくあつてはいけない、きれいであつてはならない、ここよくあつてはならない」といい、「絵はすべての人の創るもの」であり「だれでも描けるし、描かねばならない」と言いきります。岡本太郎やヨーゼフ・ボイスの言葉は、「生活すべてがアート」とも聞こえます。アートは生活すべての創造的発想力を高め、特に経済社会では商品やサービスが一般化しない付加価値を生む原動力となり得ます。アートを「自由の科学としての芸術」(ヨーゼフ・ボイス)だとするのは理想論かもしれませんが、少なくとも、創造力は誰にも備わり、内在していて搾取されることはなく、物質的資源と違って原理的に無尽蔵で、誰かが使うことによって他者の便益が低減するものでもありません。

答えが出ない「アートセンターとは何か」を毎年このメッセージで自問しています。敢えて正解のないことを自問し続けるのは自分たちの現在地を確認しながら、「A rolling stone gathers no moss」(転石苔むさず)のように転がり続けることが我々の使命だと思うからです。この格言は良い意味にも悪い意味にも解釈されますが、どちらの立場も異論を排除しないというアートセンターの大切な姿勢だと考えます。

2024年3月 浜松市鴨江アートセンター 館長 村松厚

vol.9

浜松市鴨江アートセンター 広報紙
2024年3月31日発行



浜松市鴨江アートセンター

静岡県浜松市中央区鴨江町1番地

TEL: 053-458-5360

WEB: <https://kamoeartcenter.org/>

開館時間: 9:00 ~ 21:30

休館日: 12月29日~1月3日/メンテナンス休館日あり

指定管理者: 浜松創造都市協議会・東海ビル管理グループ

